

アリとキリギリス



ねん くみ ()

なつの あつい ひでも、アリは たべものを あつめて
いました。

「いまのうちに、たべものを あつめておこななくっちゃ。
じきに、さむい ふゆが くるのだから。」

キリギリスは、いつもうたを うたっていました。

アリは、「きれいな うたごえだな。」ときいていました。
なんだか、げんきが でてきます。そのうたを ききながら、
せっせと たべものを はこんでいました。

さむい さむい ふゆが やってきました。

アリの いえに、キリギリスが やってきました。

「アリさん、たすけてくれないか。」

「キリギリスさん、どうしたんだい。」

「じつは、たべものが すっかり なくなってしまうて。」

「なつの あいだに、ためておけば よかったんじゃないか。」

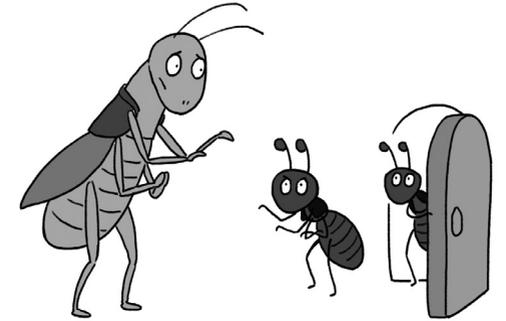
「なつは、うたをうたうのにいそがしかったんだ。」

そういうと、キリギリスは したを むいてしまいました。

アリは、いえの なかを みました。

たしかに、たべものは まだ たくさん あります。

でも、たべものを あげると せつやくを しなければ
なりません。



アリは、キリギリスに たべものを あげるべきでしょう
か。あなたの かんがえと りゆうを かきましよう。

<hr/> <hr/>

はなしあって かんがえたことを かきましよう。

<hr/> <hr/>
